**知ろう　オミクロン株対応2価ワクチン**

**ファイザー、モデルナの2社が開発**

　新型コロナウイルスの新規感染者数も全国的にようやく減少傾向に転じてきました。第6波、第7波はオミクロン株による流行が発生し、これまでのデルタ株以前の新型コロナウイルスとは全く異なる局面が起こりました。それとともにこれまでのmRNAワクチンを3回あるいは4回とブースター接種した人も多く感染し、これまでのワクチンでの感染防止効果にはある程度の限界が見えてきました。ファイザーとモデルナはオミクロン株にも対応した新たな2価ワクチンの開発に着手し、すでに製造承認が得られ、実際に接種が始まりました。今回は、この2社の新しい2価ワクチンについて解説します。

**モデルナのmRNA-1273.214ワクチン**

　モデルナのmRNA-1273.214には、従来の新型コロナウイルスとオミクロン株に対するmRNAがそれぞれ25μg含まれている2価のワクチンです。

　3回目までに従来のmRNA-1273を接種した人に4回目の接種ではmRNA-1273と新しい2価のmRNA-1273.214を接種し、接種前と29日後のオミクロン株に対する中和抗体を測定した結果、新型コロナウイルスに未感染群では、従来のワクチンの4回接種群では抗体が4.4倍増えたのに対して、mRNA-1273.214接種群では8倍になりました。また、既感染群では2.5倍と4.8倍になり、どちらもmRNA-1273.214を4回目に接種した群で中和抗体が増加していました。

　接種後の有害事象は、発熱がmRNA-1273の3回目群では7％に認められましたが、mRNA-1273.214の4回目接種では4％に減少しました。頭痛、全身倦怠感、嘔気などの他の全身性の有害事象もすべてmRNA-1273.214の4回目接種群では少なくなっていました。さらに、接種部位の痛みも、mRNA-1273の3回目接種群では84％に認められましたが、mRNA-1273.214の4回目接種群では77％と若干少なくなっています。

**ファイザーのBNT162b2 Omiワクチン**

　ファイザーのオミクロン株に対応したBNT162b2 Omiは、30μgと60μgの2群でモデルナと同様に接種後にオミクロン株に対する中和抗体がどれほど増加するか試験しています。その結果、1か月後のオミクロン株BA.1に対する中和抗体は、それぞれ接種前に比べて13.5倍と19.6 倍と増加していました。また、同時にオミクロン株BA.5に対する中和抗体も調べた結果、BA.1の約半分程度になるものの、接種前に比べて明らかに増加することがわかりました。有害事象についての詳細は不明ですが、おおむね従来のワクチンと同等か、やや少ない傾向にあると言われています。